|  |
| --- |
| 平成３０年度ＳＣ大阪府市町村老連役員研修会  **「**転換期を迎えた老人クラブの活動とこれからの課題**」**  日本福祉大学　中川　晴夫　(２０１８．８．２２) |

１．転換期を迎える老人クラブの活動

(１) 老人クラブを取り巻く社会的な５つの課題

①　わが国の高齢者に対する従来の施策は、「保護」と｢世話」「慰労」が中心ではなかったか

②　「人生９０年時代」に相応しい社会の設計になっているか　　―ライフサイクルの変化―

③　「孤立化」「孤独化」する高齢者の急増

④　世代間の「断絶」「輪切り」の進行　　　―高齢者は他の世代からどう見られているかー

⑤　「社会福祉」と「社会教育」の連携・融合が求められている　　ー福祉と教育の近くて遠い仲－

(２) 高齢化社会における老人クラブの内なる５つの課題

①　手のぬくもりを感じる人間関係の再構築を　　―遠くが近くに、近くが遠くに―

②　「内向き性症候群」に陥っていないか

③　「世間体」に左右される行動様式

④　老人クラブの良さや必要性を会員自身が共通理解できているか

⑤　異質集団づくりの大切さ　　―似た者同士だけでは互いに成長しない―

(３)人はなぜ、何のために学び、活動するのか

□ あらためて「学び」と「活動」の意味を問い直す　―「人の役に立つ」力はどうして獲得できたのか―

２．高齢者と「生きがい」

(１)　高齢者の生活と「生きがい」

□ 「健康」「経済生活」「こころ(生きがい) 」の３つが「高齢者の不安の３Ｋ」と言われているが……

□ 「生きがいに関する調査結果」は何を示しているか　　―他の世代と異なる調査結果が―

(２)　高齢者像の変化

□　高齢者像の変化をとらえきれているか

■　Ａ群＝いわゆる「戦中派」　（青春時代を戦時中に過ごし現在８０歳代後半以上の高齢者）

■　Ｂ群＝７０歳代後半～８０歳前半　(戦前の価値観と戦後教育の狭間で意識を構築)

■　Ｃ群＝団塊の世代～７０歳代前半 (戦後民主主義教育の申し子)

□　高齢者像の変化と今後の活動の方向

(３)　高齢者と社会参加

□　なぜ、高齢者の「社会参加」が大切なのか

３．高齢者と地域活動

(１)　地域とは何か、地域づくりとは何か

□　地域の３要素

■　自然環境　　　■　社会環境　　　■　文化環境

□　地域づくりの３要素

■　仲間づくり　　■　場所づくり　　■　生活づくり

□　老人クラブの特徴と目的

(２)これからの地域づくりの方向と老人クラブの出番

□　地域のつながりをどう回復させるのか　　―地域に「であい」「ふれあい」「わかちあい」の場の創出を―

（３）人間の「関係性」の再構築をめざして

□　「絆」から「縁」の社会へ

□　今後の地域コミュニティづくり、人間関係のあり方 　―「袖触れ合うも他生の縁」型社会の構築へ ―

（４）若手高齢者の抱える課題と今後の取り組み方向

□　活動スタイルのモデルチェンジへ　　―サロン型活動から行動型活動へ―

□　生活と活動の結びつきの強化　　　　―生活づくりの活動へー

□　「足で手をつなぐ」活動の展開を

（５）なぜ、若手高齢者が加入しないのか

□　成育歴から見た現在の高齢者の抱える課題

|  |
| --- |
| 小学生の「地域知らず」  中・高校生の「地域離れ」  大学生・青年の「地域抜け」  ２０歳代　「猛烈社員」 地域抜け  ３０歳代　「企業戦士」　　職域唯一・地域忘れ  ４０歳代　「働き蜂」　 地域・家庭の放棄・仕事一筋  ５０歳代　「粗大ごみ」　 家庭からの疎外・家庭での居場所なし  ６０歳代　「濡れ落ち葉」　定年退職・地域生活での居場所なし  ７０歳代　「ワシも族」　 地域喪失・自己喪失 |

加齢とともに進行する地域離れ

□　老人クラブ加入促進活動と、未加入者の実情

　　■　全老連「老人クラブ実態調査結果」では９５．５％のクラブが何らかの勧誘活動を行っているが……

４．老人クラブの可能性への挑戦

（１）助け合いの文化を地域に定着させる取り組みを　―「新地域支援事業」は絶好のチャンスー

□　助けられ上手になろう ―５つの覚書―

■「助けて」と本音で言える相手を作る　■自分なりのＳＯＳの発し方を工夫する　■普段は助け上手に　■助け合いのグループや団体に加入する　■「世話にならない」と家族に言わない

(２）老人クラブ活動活性化のための覚書

□　「芋洗いの教育」を大切に

□　課題を抱えた人のニーズに応えるのが基本 　―「傾聴」が大切―

□　すべての人間は違うということを前提に　 ―「十人十色」「異なる価値観」―

□　活動は「やりたい」と思ったときが一番の旬

(３) リーダーが育つ老人クラブとは

□　どのように人間は成長していくのか　－自分の存在意義が実感できたときが第１歩―

□　若手会員は活動資源の宝庫　　―多様で、多彩な特技や趣味―

□　今もっとも元気のある団体から学ぶ　－「目玉商品」を持っているかー

(４) リーダーのための覚書

□　リーダーの最大の仕事は、後継者を育てること

□ 「指導者」から「始動者」へ

□　「気がつき人間」になろう

□　あらたな活動の舞台の開拓へ

５．まとめにかえて

　□　歳を重ねるとなぜ速く時間が過ぎると感じるのか